

Economic cost of Bird Flu トリインフルエンザの経済的損害

Mehmood-UI-Hassan Khan

我が国において貧困と失業を増やし、外貨準備高と税収入を大きく減らすと考えられるこの新たなトリインフルエンザを国内から根絶するためには、しっかりとした対策が必要である。

新たなトリインフルエンザが、動物疾病として世界の各国でジャングルを焼く野火のように拡大しつつある。極東の多くの国が、狂牛病や SARS のために輸出量と収益をすでに大きく落ち込ませてしまっている時に、今度は新たなトリインフルエンザの脅威が世界の多くの国の経済に手痛い打撃を与えている。トリインフルエンザの拡大によって、中国、台湾、タイ、インドネシア、そして特にインドでは養鶏製品の輸出に損害を与えた。ウイルスはこの 1 か月の間に信じられない速度で拡大し、東アジアのおよそ 10 か国を襲い、8 名の人と数千万羽の家禽を死なせた。2004 年 1 月 27 日現在で、この疾病が出現した国は、韓国、日本、ベトナム、台湾、カンボジア、パキスタン、インドネシア、タイ、中国、ラオスである。この地域のその他の多くの国にもリスクがあり、オーストラリアやシンガポールなどの国では、積極的な予防措置を取っている。トリインフルエンザの災禍は、今ではアジア 10 か国に拡大しており、世界でもっとも多い人口を抱える中国では経済にだけでなく、多くの人々の食習慣にも大きな変化をもたらすと考えられる。

パキスタンにおいても、この新しいトリインフルエンザでカラチ市の 600 万羽以上のニワトリが死亡した。このウイルスは現在、バルチスタン地域に移動しつつある。この国には、家禽業従事者やその関係者が 3、40 万人いて、毎年、家禽業には 5 兆から 7 兆ルピーが投資されている。家禽農場のオーナーたちは、新たなトリインフルエンザウイルスの突然の出現に、恐れおののいている。

トリインフルエンザ危機は、2003 年の重症急性呼吸器症候群[SARS]の大流行と恐ろしいほどの共通点がある。2003 年 11 月以降、パキスタン南部のカラチ市の近くであるシンド県では、3 千の農場で 5～600 万羽のニワトリが死亡したが、パキスタンの農業畜産省の発表では、そうした死亡のうちトリインフルエンザが原因だとできるのは数千羽にすぎないとしている。その他は、ニューカッスル病といった、従来からある疾病が原因であるというのだ。パンジャブでも、トリインフルエンザに関するニュースが流された後に、人々がニワトリや卵を消費するのを避けるようになったために、家禽産業は大きな痛手を被った。

生きたニワトリの相場は 58 ルピーから 28 ルピーに落込み、先週で 90 ルピーだった鶏肉は今では 62 ルピーにまで値を下げている。卵は 1 ダースが以前は 40 ルピーしていたものが、今では 28 ルピーになっている。公式発表によると、パキスタンでは H5N1 の確実な証拠はなく、これまでに見つかったのは、人に対する致死性があるとは考えられていない H7 と H9 ウイルスのみである。

世界では、人口の増大に伴い、食肉の消費量が 5 倍に跳ね上がっており、特にこの 20 年間の中国が顕著である。タイに本拠を置く世界最大のニワトリ生産と家畜飼料製造の企業であるチャローン・ポーカパン・グループ(Charoen Pokphand Group)の主要投資先はすでに中国になっている。中国は、流行が依然として存在していることが発見されて輸入規制が発動されると、日本および EU への輸出を失うというリスクを抱えている。中国の評判に傷がつけば、その他の食品の輸出にも打撃がおよび、SARS 危機から立ち直ってきたばかりの観光にも影響が出かねない。

多くの国が、パキスタン、インド、バングラデシュを含む感染地域からの家禽産物輸入を停止している。家禽産物の中東および極東諸国への輸出が全面的に禁止されているために、多くの国の政府が、貴重な外貨準備を失っている。インドとパキスタンにとっては、西アジア諸国が種卵、加工肉、生まれ立てのヒナの最大規模の市場である。インドは、パキスタンからの家禽産物輸入を禁止措置にした。インド政府は苦肉の策として、輸入または外注による家禽およびその製品をすべての加工工場から遠ざけることで疾病流行に歯止めをかける緊急措置を発動した。自国内のコマーシャル家禽はまれにしか市場に回らないが、それに対しても完全隔離を意味する Z グレードの安全対策を指定した。インドの保健省は、疾病が入り込まないようにインド・パキスタン国境沿いにある家禽農場を閉鎖することを発表した。マレーシアでも、トリインフルエンザのアジア全体への拡大が深刻化する懸念で株価が 0.42% 下落した。クアラルンプール証券取引所の景気総合指数は 3.42 ポイント下がり、終値が 819.85、最安値が 814.40 になった。シンガポールの株価はその他の地域の証券取引所で見られたのと同じ鋭い下がり方を見せ、2.19% 下げて取引が終了した。ストレーツ・タイムズ指数は 41.71 ポイント下げて 1,862.84 で終了した。インドネシアでは 0.69%、香港では 2.40%、台湾では 0.03%、ソウルでは 0.40%、東京では 0.69%、オーストラリアでは 0.98%、ニュージーランドでは 0.17%、フィリピンでは 1.02% 下げて終了した。

多くの国の家禽農場経営者は今や、自国の政府がやろうとすることに翻弄される立場にある。タイとインドネシアの当局は、トリインフルエンザ問題に正面から立ち向かおうとしたがらない。流行を感染地域に留めるための対策として、莫大な数のニワトリをビニール製の袋に入れ埋却している。トリインフルエンザウイルスが変異し続けるならば、それがヒトのインフルエンザウイルスをとらえて遺伝子変異を起こし、人間を殺す能力のある新たな制御不能のウイルスになる可能性がある。そのように述べている WHO は、この疾病がミャンマーとラオスにはまだ広がっていないとするならば、次にそこに広がること危惧している。

インドネシアの発表によると、国内で流行の被害にあった農場は 400 か所を超える。一方タイ政府は、トリインフルエンザ危機にあるとする地域を 10 県から 76 県に拡大した。軍隊が緊急に出動して、この疾病の拡大を止めるために莫大な数のニワトリを殺処分した。

タイではかつて今も養鶏産業がもっとも太い経済の柱であり、近隣および世界中の国への輸出を通じて毎年 1 兆 5000 億米ドル以上の外貨が経済を潤している。しかし、ヨーロッパや日本などがタイのニワトリの輸入を停止したために、それはまさに一晩で消し飛んでしまった。バンコク市場ではニワトリ輸出業社の株が暴落した。300 万人を超すタイ人農場従事者も、自分たちの家禽が突然淘汰され、産業が内部崩壊したことで動揺している。2003 年 12 月には、韓国当局が 110 万羽のアヒルとニワトリを殺処分したことを発表した。

ベトナムとタイでは、自分たちの国にはトリインフルエンザは存在しないと当局が尊大に保証して、その間は市民を守ることをしなかった。その後、トリインフルエンザによりすでに少なくとも 8 名が死亡している。トリインフルエンザのウイルス株について不本意ながら報告したのは、カンボジア、中国、インドネシア、日本、ラオス、パキスタン、韓国、台湾、タイ、ベトナムの 10 か国である。タイ 1 か国だけで、2000 万羽を超えるニワトリがこれまでに殺処分された。

オランダでは 2002～2003 年に、強い感染力を持つトリインフルエンザを根絶するために、数億ユーロの経費を費やして全家禽の 4 分の 1 を淘汰した。それでも業界の一部は、この災害からもはや回復できそうにない。オランダは欧州連合の中で最大の家禽輸出国だが、2003 年 3 月に発見されたトリインフルエンザが大流行し、1 名の人間が死亡するまでになったのを困り込むために、およそ 1300 か所の農場の 3070 万羽の家禽を淘汰した。淘汰と、影響を受けた農場主への補償のために政府にのしかかった総経費は 2 億 7000 万ユーロ(3 億 4400 万ドル)に及ぶ。しかし農業経済研究所(LEI)によれば、家禽農場主、淘汰にあたった業者および関係産業を含めた総経費はおよそ 4 億から 5 億ユーロに及ぶ。

トリインフルエンザは日本の食肉市場にも大打撃を与えている。タイとインドネシアからの家禽輸入の全面的禁止が行われたために、多くの家庭が鶏肉を食べるのをあきらめた。消費の落ち込みのために、鶏肉の価格が 15%下落した。

パキスタンでは、家禽肉の価格が多くて 30 から 35%下落し、家禽事業主の 1 日あたりの損失は 100 万ルピーになると見積もられている。タイは、米国、ブラジル、欧州連合に次いで、世界の家禽製品の 4 分の 1 を生産しており、日本への最大の鶏肉輸出国である。2003 年に、中国産の輸入アヒル肉にトリインフルエンザが発見され、中国から日本への鶏肉輸入がほぼすべて停止した。タイからの輸入が禁止さ

れたのは、北米とカナダで『狂牛病』の症例がいくつか見つかったために米国およびカナダからの牛肉輸入が禁止された 1 か月のことであった。致死性の鳥ウイルスである『トリインフルエンザ』すなわち H5N1 型インフルエンザがアジア全体に拡散し、今ではベトナムの半数近くの県で見られるまでになった。WHO は、ベトナムの全 58 県のうち 25 県でこの疾病が発見されていることを確認した。

家禽農場主で自らの事業を部分的に閉鎖した者がおよそ 20%におよび、鶏肉生産の過剰、輸出不能、追加される課税、さらにこの国での新たなトリインフルエンザの発生による業界の損失はおよそ 3兆 5000 億ルピーになる。タイの家禽産業は、国内のニワトリがトリインフルエンザにかかった場合には、少なくとも 2兆 6000 億ドルを損失する立場にある。タイの家禽輸出額 1兆 5000 億ドル(8億 1300 万ポンド)の 60%を輸入している日本は、ベトナムで少なくとも 5 名が死亡したこの疾病が拡大するというおそれのために、タイからの鶏肉輸入を全面禁止した。英国では、タイからの鶏肉輸入の禁止で鶏肉の価格が生産費を下まわっているこの時期に、もっと厳しく品質保証された鶏肉を供給しろとの圧力が農場主たちに対して高まってきている。家禽農場主の得る利ざやも、穀物価格がこの 1年で倍増(55ポンドから 110ポンドへ)して飼料費が高騰したために、ますます圧縮されてきている。世界で 2 番目の家禽輸出国であるブラジルはトリインフルエンザに襲われている国からの家禽および家禽製品の輸入を禁止した。

世界で最大のニワトリ輸出国である米国は、輸出が伸び始めたことにより、アジアの需給ギャップの埋め合わせを開始したところだった 1 年前に米国は、家禽と卵の輸出額は 2兆ドルという見積もりを出しており、すべての点から見て今年は大きな利益を得る側にあった。人々は非常に不安になり、トリインフルエンザの問題に関する当局の説明をなかなか信じようとはしていない。我が国(パキスタン)において貧困と失業を増やし、外貨準備高と税収入を大きく減らすと考えられるこの新たなトリインフルエンザを国内から根絶するためには、しっかりとした対策が必要である。